

多摩丘陵の美しい自然環境 どこからでも、どちら方向にもスタートできる

菅版・多摩自然遊歩道

川崎市の遊歩道「多摩自然遊歩道」は2コースあり、①JR 稲田堤駅から小沢城址を通り、農業技術支援センターから多摩緑地保全地区を抜け小田急・読売ランド前駅に至る ②稲田堤駅から薬師堂、菅北浦緑地、まほろばの森を抜け寺尾台の八角堂跡より東生田自然遊歩道に至るコースです。いずれも残された多摩丘陵の緑地にはクヌギ、コナラを主体の雑木林の中に、シラカシ、

ヒノキ、竹林などが点在し、四季の変化に富んだ自然景観が楽しめます。2コースとも JR 稲田堤駅を起点とし菅から出て行くコース。この2コースを総合し、菅に住む人がどこからスタートしてもよく、どちら回りでもよい「菅版・多摩自然遊歩道」地図を作りました。自分の家から一番近いコース地点から、お好きな方向にスタートしてみてください。



全長約6km・3~4時間

トイレ

小沢城址
 通ってきた丘陵の道の一部は鎌倉に通じ、この地は交通の要衝でたびたび合戦の舞台ともなりました。そのため鎌倉幕府は小沢城を築き、生田緑地の枳形城とともに鎌倉の防衛拠点にしました。天然の要塞となった丘陵地形は小沢城址緑地公園として保存され、その中には空堀、物見櫓、武器庫跡、土塁、井戸跡などの山城の遺構が残っています。

薬師堂
 この地の領主であった稲毛三郎重成は、鎌倉時代初期の武将で数々の武功により源頼朝の信頼は厚く、頼朝の妻・政子の妹君、綾子を妻にももらいます。頼朝と義兄弟になった重成はいよいよ主君に尽くしますが、建久6年(1533)に妻はなくなり、重成は出家して極楽寺を建てて手厚く葬りました。この寺の一部がこの薬師堂と言われます。

八角堂跡(寺尾台廃堂跡)
 寺尾台第2公園にある寺尾台廃堂跡は1950年代の発掘調査により、基壇の上に建てられた堂宇(どうう)の存在が確かめられています。基壇が八角形であることから建物も八角堂と考えられ、その後の調査で屋根瓦から、奈良時代の中頃に聖武天皇の命で建てられた武蔵国分寺より古い可能性が高いことがわかり、この地が昔から重要な場所だったことが分かります。